

当院における看護師に対する院内暴力の実態調査

中西里絵¹⁾ 見田野直子¹⁾ 高橋陽子¹⁾ 美原盤²⁾

1) 脳血管研究所美原記念病院 看護部

2) 脳血管研究所美原記念病院 院長

[はじめに]労働安全の視点から、看護師には安全で快適な環境で働くことが確保されなくてはならない。しかし、臨床の場では、身体的暴力、言葉の暴力、セクシュアルハラスメントなどの院内暴力の被害者となっていることは少なくない。今回、当院の看護師に対する院内暴力の実態を調査し、院内暴力防止対策を考える一助とした。

[方法]平成 26 年 7 月、当院に勤務する看護師 120 名を対象に、過去 1 年間の院内暴力体験の有無に関してアンケート調査を行った。院内暴力の分類は日本看護協会の「保健医療分野における暴力対策指針」に準じた。

[結果]アンケートの回収率は 76.4%であった。院内暴力を受けた経験がある看護師は 64 名(42.9%)であった。院内暴力の分類別では、身体的暴力 42 件(40%)、言葉の暴力 37 件(35.2%)、セクシュアルハラスメント 26 件(24.8%)であった。暴力を受けたことがある看護師のうち、業務に支障をきたしたかについては、少しある 45 件(70.3%)、ある程度ある 26 件(40.6%)、かなりある 15 件(23.4%)、極度にある 3 件(4.7%)であった。また、上司に報告した看護師は 34 名(53.1%)、報告しなかった看護師 30 名(46.8%)であった。報告しなかった理由として、「病院の体制として報告しても仕方ないと思った」、「加害者に認知症なので報告しても仕方ないと思った」、「看護師としてそのくらいのことは我慢すべきだと思った」などの意見が多かった。

[考察]過去 1 年間に半数以上の看護師が院内暴力の被害に遭い、業務への支障もきたしていたにもかかわらず、「報告しても仕方ない」と回答した看護師が多かった。このことは院内暴力への病院として組織的対応が十分なされていないためと思われた。

[結論]看護師が安心して働ける環境づくりのために、院内暴力に関する報告制度と対応システムの確立することが求められる。